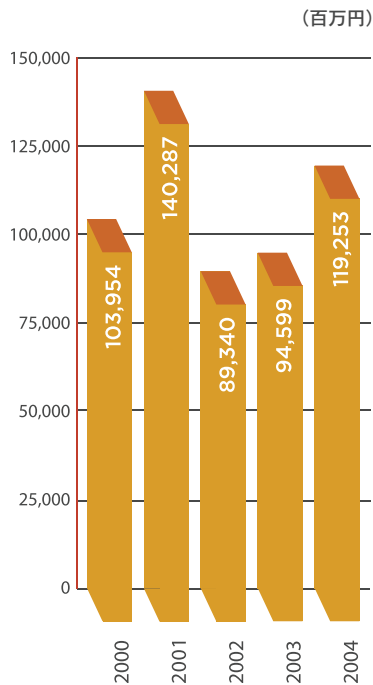
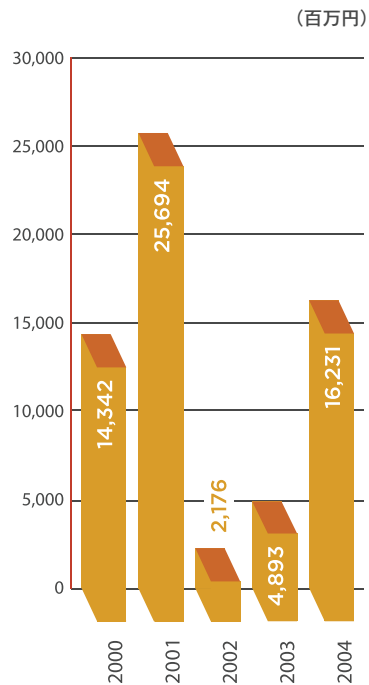


COMPANY AT A GLANCE 連結財務ハイライト

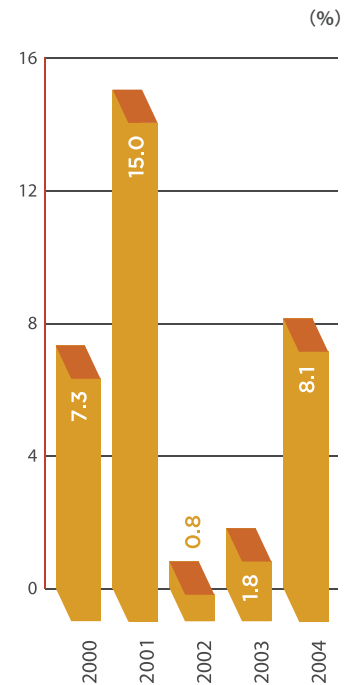
売上高



営業利益



ROE (株主資本利益率)

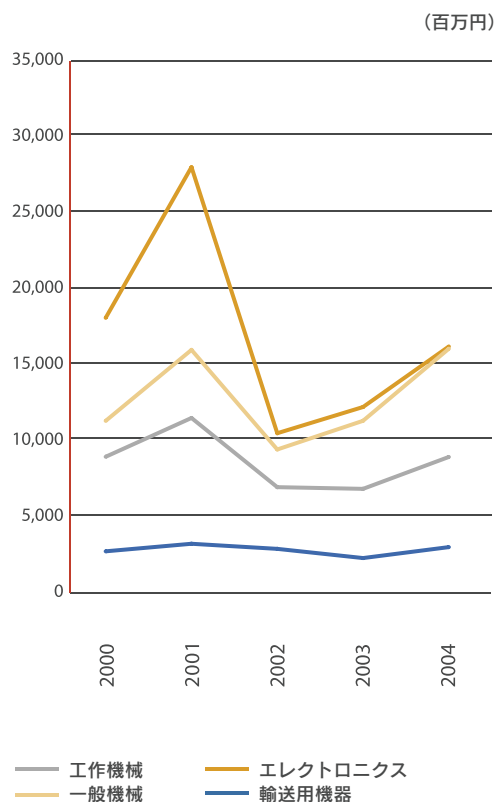


2002年はITバブルの崩壊の影響を受け、大幅な減収となりました。しかし、2003年以降、新規ユーザー、新規用途の開拓に注力し、2004年は企業業績の回復に伴う設備投資の回復など、外部環境も追い風となり売上高は急激に回復しました。

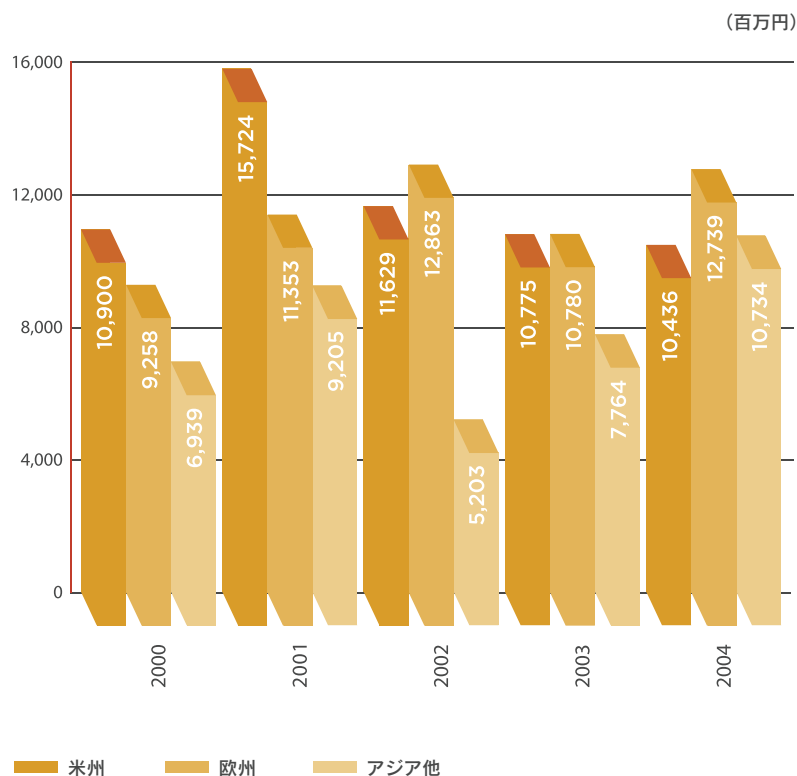
当社は製造リードタイムの短縮など、生産性の向上に積極的に取り組んできました。その結果、2004年には原価率を2003年の70.5%から65.3%にまで引き下げることに成功し、大幅な営業増益を実現しました。

当社は資本の効率的な活用が経営の主要な目的と考えています。中期経営計画ではROE10%を目指しています。急激な業績悪化となった2002~2003年はROEが大幅に低下しましたが、2004年には8.1%と回復、目標の達成は視野に入ってきました。

産業別売上高(単独ベース)



地域別売上高



エレクトロニクス向けはITバブル崩壊の影響を受け、2001年をピークに大幅に減少しました。2002年のはじめから工作機械向けを皮切りに一般機械向けも回復に向かい、2002年に大幅に減少したエレクトロニクス向けも2003年の後半からは、回復基調が鮮明になっています。

当社は積極的にグローバル展開を進め、日本、欧州、米州、アジア他の4極における生産・販売体制が整いました。海外売上高比率50%を目標にさらに海外での生産・販売体制を強化します。2001年に大幅に売上が伸びた米州では、この数期、売上高は横ばいに留まっていますが、欧州では2004年の売上高が2002年のピーク水準まで回復することができました。アジア他では急激な増収を記録しており、米州の売上高と同水準になっています。これまでは韓国、台湾の伸びが牽引役となっていました。今後は中国市場の成長がアジア他の牽引役になると判断し、中国における新工場の建設を決定しました。